

令和5年7月26日

あきる野市議会
議長 村野 栄一 様

議会運営委員会
委員長 天野 正昭

行政視察事務調査報告書

このことについて、下記により行政事務調査を実施したので、会議規則第111条の規定により報告します。

記

- 1 実施日 令和5年7月13日（木）から同年7月14日（金）まで
- 2 視察先 岐阜県可児市及び愛知県知立市
- 3 調査名及び目的 オンラインを活用した議会運営の調査
- 4 参加者 天野正昭（委員長）、大久保昌代（副委員長）、浦野治光、子籠敏人、たばたあずみ、中村のりひと、ひはら省吾
- 5 視察内容 別紙のとおり

【視察日】	令和5年7月13日(木)から同年7月14日(金)まで
【視察場所】	岐阜県可児市、愛知県知立市
【視察項目】	オンラインを活用した議会運営について
【目的】	<p>本市議会では、令和2年度にコロナ禍における新しい生活様式を踏まえ、オンライン会議を実施するための環境整備やICTの活用によるペーパーレス化、迅速な情報伝達など、議会業務の効率化を推進することを目的にタブレット端末等を導入し、令和3年9月定例会議から運用を開始しており、まもなく2年が経過しようとしている。こうした中、更なるICTの活用によるペーパーレス化の推進等を図るため、先進市議会である可児市議会及び知立市議会の取組を学び、今後のあきる野市議会の議会運営に活かすことはとても有意義なことであると考え、視察を実施した。</p>
【概要】	<p>＜岐阜県可児市＞</p> <p>可児市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所が行った、議会改革度調査2014において、全自治体の84%に当たる1503議会の中で総合第12位になるなど、積極的に議会改革に取り組んでおり、その一環として、グループウェアによる議員間、議員と事務局の情報交換とペーパーレス化の推進、対面式とオンラインを併用したハイブリット議会報告会の開催、ユーチューブを活用したインターネット放送、ソーシャルネットワーキングサービス(フェイスブック、インスタグラム)を活用した議会情報の発信、グーグルカレンダーを活用した議会活動の公表など、ICTを活用した会議や情報発信を行っている。</p> <p>次に、今回の視察の調査項目ではないが可児市議会の議会運営に関する</p>



る取組についても説明を受けたので、以下報告する。

可児市議会では、他市議会に先駆け、4つの議会サイクル（議会運営サイクル、予算決算審査サイクル、意見聴取・反映サイクル及び若い世代との交流サイクル）により、多様な民意を反映し、政策に強い議会を創っている。議会運営サイクルは、議長及び常任委員会等が次期議会への引継を行うことで、議会の連続性を創り出すものである。予算決算審査サイクルは総合計画を踏まえた財政への監視・提言である。意見聴取・反映サイクルは所管事務調査を体系化したものである。若い世代との交流サイクルは、地域課題解決型キャリア教育

を体系化したもので、高校生議会を通じて、地域の大人と若い世代が交流し、意見交換することで、ふるさとの発展に寄与する人材育成を行うものである。



<愛知県知立市>

知立市議会では、平成22年から議会改革の取組を開始し、その時から議会のICT化を検討項目の一つとして明示し、議会におけるICTの取組を進めてきた。令和2年5月には、コロナ禍で「書面・対面・接触」のリスクを回避する中で、「議論を止めない」「公開を止めない」ためには電子化・オンライン化が必要不可欠であることが再認識され、ICT化が加速していった。

令和3年2月には、タブレット端末、ペーパーレス会議システム及びグループウェアを導入するとともに、知立市議会情報通信機器運用基準を定め、3月定例会議から公式の会議で電子通信機器の運用を開始し、議



員及び理事者共にペーパーレス会議が可能となった。

なお、1年間は試行期間として、紙資料の配付も行った。

令和3年11月には、市民との対面式とオンラインを同時に行うハイブリット議会報告会を開催した。

令和4年3月には、1年間の試行期間を経て、会議における紙資料の配付を終了した。このことに伴い、傍聴者への紙資料の配布もやめ、その代わりにタブレット端末に保存してある資料を議場内のスクリーンに映し閲覧してもらうこととした。

知立市議会では、この他にもオンラインによる全員協議会や議会運営委員会等の開催、オンラインによる視察の受入れや研修会の実施など、様々な取組を行っている。

知立市議会におけるICT化の取組は、単なるペーパーレスに留まらず、タブレット端末やクラウドなどの活用により、情報収集、情報処理、情報伝達、情報共有などの能力向上につながり、議会活動が活発になっている。



【考 察】

＜岐阜県可児市議会＞

可児市議会を視察して、特に印象に残っているのは、対面式とオンラインを併用したハイブリット議会報告会である。本市議会では、平成28年10月から平成31年2月までの間に4回ほど議会報告会を開催しているが、参加者が少ないなどの課題があった。可児市議会で実施している対面式とオンラインを併用した議会報告会には、高齢になり会場に行きたくても行けない方や若者など、これまで対面式では参加していなかった方が参加しており、市民の参加機会が広がるという点で新たな可能性を感じた。

また、可児市議会では、4つの議会サイクル（議会運営サイクル、予算決算審査サイクル、意見聴取・反映サイクル及び若い世代との交流サイクル）で収集した市民からの意見を集約し、所管委員会で所管事務調査事項として調査を行った上で、本会議において委員会代表質問等を行い政策提言につなげており、この取組は本市の議会においても議会の機能強化につながるものと感じた。

<愛知県知立市>

知立市議会では、コロナ禍で「書面・対面・接触」のリスクを回避する中で、「議論を止めない」「公開を止めない」ためには電子化・オンライン化が必要不可欠であるとの認識のもと、タブレット端末を最大限活用し、様々な取組を行っていた。

本市の議会では、タブレット端末及びペーパーレス会議システムを導入したものの、完全なペーパーレスには至っていないが、知立市議会では、貸与されたタブレット端末以外のパソコン（私物）等の持ち込みを認めることで、議会活動の完全なペーパーレスを実現していた。これにより、紙代、印刷代、職員の労務費などの歳出削減につなげていた。また、傍聴者への資料提供についても、タブレット端末の導入を機に、紙での配布をやめ、代わりにタブレット端末に保存した資料を議場のスクリーンに映し閲覧していただくなどの取組を行っており、本市の議会においてもペーパーレス化を推進するに当たり、とても参考となる内容であった。また、議会報告会についても、対面式での開催とオンラインを同時に行うことで新たな参加者を得るなど、オンラインを有効に活用した取組を進めており、今後、本市の議会において、議会報告会を開催する際に、大変参考となる内容であった。

今回の両市議会への視察は、本市議会における更なるICTの活用によるペーパーレス化の推進等を進める上で、大変参考となる有意義なものであった。